

有機フッ素化合物(PFAS)汚染の血液検査を求める陳情

なんと
否決

①国と東京都に(1)(2)を要望する意見書を提出してください

- (1)多摩地域の住民に PFAS血中濃度の検査を実施すること
- (2)PFAS血中濃度の検査を保険診療で受けられるようにすること

②市独自のPFAS血中濃度の検査体制をつくってください

賛成 9人
反対 12人



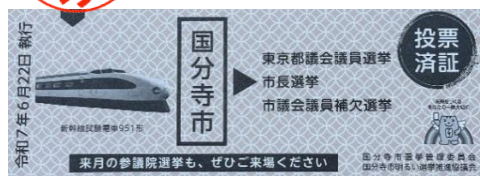
署名は市内外から5,883筆が集まり、多くの市民がPFASの健康被害への実態を知りたいと願っているなか、市議会は賛成少数で不採択となりとても残念です。
2020年に多摩地域で実施された民間のPFASの血中濃度検査では、検査を受けた

多数の国分寺市民からPFASが高濃度で検出され、発がん性や胎児・乳児の成長阻害など、さまざまな健康被害も懸念されています。
生きるために必要な水の問題だからこそ、PFASの対策は誰もがアクセスしやすい体制づくりが欠かせません。

グリーンな国分寺(1)	共産(1)	れいわ(1)	維新(1)	ネット(3)	公明(3)	立憲(4)	自民(7)
○	○	○	×	○	×	○ 3人 × 1人	×

実現

「投票済証」をもらったことがありますか？
オリジナルデザインで作るよう提案し、実現しました。ぜひ投票後に受けとって下さい。



Chihiro's Diary



6月
ゲストスピーカーとして登壇
@東京経済大学



7月
参院選の投票アピール
@国分寺駅南口



8月
PFAS汚染を描いた映画
『ウナイ』を鑑賞



9月
議員有志で
「世界気候アクション」

■鈴木ちひろ プロフィール

1996年神奈川県藤沢市生まれ。日本語教師として赴任した奄美大島で環境問題に関心を持つ。有機農業の仲間から国分寺のオーガニックカフェ「カフェスロー」を紹介され、働くことに。都市農業や湧水、地域通貨がある国分寺に惹かれて移住。同カフェスタッフ、重度障がい介護ヘルパーを細々と続けながら、新人議員として奮闘中。趣味は手話学習。

■市議会：無会派（グリーンな国分寺）

会派に属さず、市民目線で声を届けます。
総務委員会 / 国分寺駅・西国分寺駅周辺整備特別委員会

■連絡先・発行元：

国分寺市泉町2-2-18 国分寺市役所5階 グリーンな国分寺控室

chihirosuzuki311@gmail.com

この報告書は「政務活動費」＝市民の税金で作られています。ひとりでも多くの市民のみなさんに市政の情報をお届けするため、ポスト投函させていただきます。

国分寺市議会議員
鈴木ちひろの
グリーンな国分寺News
HPはこちら
2025年10月号 グリーンな国分寺ニュース vol.12
このニュースはグリーンな国分寺サポーターの手作りです。
f X i n o + e

2026年度から
あたたかい中学校給食ついに実現へ

選択制弁当方式

保温食缶方式



選択制弁当方式

保温食缶方式

アレルギー対応	できない	範囲未定だが検討中
宗教食対応	できない	非対応見込み
食べる量の調整	できない	できる
食べる時間	配膳5分 食事15分	配膳10分、食事15分
汁物の提供回数	月2、3回	毎食



あたたかい給食になることはうれしい！ でも…

市外の給食工場で作られた給食が運ばれる方式は従来通りです。また、国分寺市には給食における食育の指針がないことも大きな問題です。実際に中学校給食のこくベジの使用率は年々下がり続けており、小学校に比べて食育の機会も少ないです。

「保温食缶方式」はあくまでも暫定的な措置です。より良い中学校給食を目指して将来的には学校の調理室で作る「自校方式」や「親子方式」などの提供方式を考えなければなりません。中学生の声を大切に、市民参加で進めるように求めています。



写真：2025年第3回定例会 厚生文教委員会 報告事項資料

みなさんのご意見・ご感想はこちらまで

2024年の税金の使われ方をチェックする「決算審査」

賛成

2024年度 一般会計の総チェック

決算審査は単なる昨年度予算の事後チェックではなく、来年度の予算編成や政策立案につながる重要な機会。

賛成した最大の理由は、市が2050年のゼロカーボンシティ実現に向け、着実に気候危機対策を進めている点です。新しい市役所の電力を再生可能エネルギー100%に切り替えたり、既存住宅への太陽光パネルや蓄電池の設置など、補助金のメニューも拡充しました。今後はすべての公共施設で再生可能エネルギーを導入し、ゼロカーボンシティをめざして積極的に取り組むよう要望しました。

そのほか、しょうがいのある人の外出を支える移動支援事業の拡充、PFAS地下水汚染問題の解消、性の多様性に関する職員研修や小中学校への授業の拡充し、LGBTQ+への理解促進などを求めました。



反対

2024年度 国民健康保険料の値上げ

昨年度も保険料の所得割額の値上げが行われました。国保の加入者は、高齢者、非正規労働者、フリーランス、自営業者などが多く、国分寺市では、所得200万円未満の世帯が7割を超えています。実際に、若い世代の非正規雇用の労働者やフリーランスの市民からは「毎年保険料が上がることに不安を感じる」という声が届いています。コロナ禍以降の物価高でまだまだ生活が苦しい加入者が多いなか、保険料の値上げを行ったことは残念です。

誰しも予期せぬ事情で仕事を失ったり、病気やけがで働けなくなることがあります。国民健康保険は誰でも加入できる医療のセーフティーネットとなるはずなのに、国が国庫負担を減らしていることは大きな問題です。毎年値上げをしていく市の方針には反対です。



2026年度予算へ要望書を提出しました

グリーンな国分寺を支える市民有志8人が集まり、予算要望書を作成しました。

それぞれジェンダー平等、社会保障、まちづくりなど、関心のある分野がさまざま、年代や職業もバラバラだったため、多様な意見を反映することができました。

要望内容

- ① ゼロカーボンを分野横断的に
- ② あらゆる分野でジェンダー平等の視点を
- ③ 国籍や性別によって差別されない多文化共生の地域社会へ
- ④ 若者の生きづらさを解消し、住み続けたいまちへ
- ⑤ しょうがいのある人の移動する権利を保障しよう
- ⑥ 子どもたちが育つ学校環境を快適に
- ⑦ PFAS地下水汚染の対策を一步前へ
- ⑧ 市民参加で進める公共施設づくりを
- ⑨ 戦争のない、平和な社会の実現のために



副市長と30分間の懇談をしました

9月議会で届けた 市民の声



録画配信



ブログ



市役所の 女性管理職を増やそう

日本のジェンダーギャップ指数は148か国中118位で低く、特に政治分野・経済分野で後退している現状。現在、市役所の女性管理職（部長・課長）は22.5%、係長職は27.2%のみ。

女性の職員の働きやすさの改善や管理職登用のためにも、長時間労働をしないことや男性の育休取得率の向上などをさらに推進し、ジェンダーの格差を乗り越え職場の風土を変えろという働き方改革をより一層進める必要がある。

「市長への手紙」は 市長名で返信を

「市長への手紙」なのに、部長から返信がくる現状のやり方は疑問。

新市長になり、制度の名前にふさわしい「市長への手紙」にしてほしいと求めたが、これまで通り部長名で返信する方針という答弁で残念。

戦後80年 戦争体験を 「記憶」から「記録」へ

戦争を繰り返さないために歴史を学ぶことが重要だが、戦争体験者は減少し、生の声を直接聞く機会は少なくなっている。複数の学校で語り部による講話を実施しているが、すべての子どもたちに戦争体験を聞く機会を提供してほしい。

小金井市のように市民の語り部を募集・登録し、もっと平和学習の充実を。

三鷹市が設立した「みたかデジタル平和資料館」のように資料や体験談をアーカイブし、より多くの市民が学べるきっかけづくりを。

しょうがいのある人が 安心して暮らせるために

しょうがいのある人の家族は日常から緊急時への大きな不安がある。市役所が緊急時の連絡先だと周知し、小平市で取り組まれている緊急時情報提供シートの整備を。

外出が難しいしょうがいのある人への移動支援を使いやすくしてほしい。来年度から自宅以外の場所（通学先・通所先）から移動支援が使えることは歓迎したいが、移動を支えるガイドヘルパー不足も心配。移動支援も長時間になると、食事介助、水分補給、トイレ介助などの身体介護が必要。ヘルパー確保のため、身体介護ありの加算と、移動支援の報酬単価の見直しの検討を。